

■藤原豊成 公卿。武智麻呂の長子。〈藤原四卿没〉で、藤原氏を代表するも、弟仲麻呂に制約された。

ふじわらのとよなり

・・・・・・ 704= 阿倍貞吉の女貞媛娘を母に、南家藤原武智麻呂の長子に生まれる。藤原仲麻呂の兄。

平城京遷都・ 710= 6歳：

・・・・・・ 713= 9歳：

若くして博士の門に学び、才学あって名は衆に聞えたという。

藤原不比等没 720=16歳：

百万町歩計画 722=18歳：

三世一身法・ 723=19歳：内舍人で、兵部大丞を兼ね、

聖武天皇即位 724=20歳：正六位下から従五位下に叙せられ、兵部少輔に任ぜられた。

長屋王の変・ 729=25歳：

・・・・・・ 731=27歳：

遣唐使9・・・・ 732=28歳：従五位上、

そのまま兵部少輔に留まっていたが、

藤原四卿没・ 737=33歳：正五位上に昇叙されたが、その後、\*疫瘡が流行して父武智麻呂を始め房前・宇合・麻呂の4卿が相次いで死去したため、藤原氏の嫡流として、従四位下に叙せられ、麻呂の兵部卿を継ぎ、参議に任ぜられた。

・・・・・・ 739=35歳：正四位下に越階昇叙、

藤原広嗣の乱 740=36歳：房前の職中衛大将を兼任して藤原氏最高権力者となるなど、軍事官衙の要職を占め続け、

畠田永世法・ 742=38歳：一時、中務卿。

大仏造立詔・ 743=39歳：\*皇太子阿倍内親王(のちの孝謙天皇)の五節奏舞に臨んで従三位に叙せられ、中納言に任ぜられた。

・・・・・・ 746= 42歳：「万葉集」によると、白雪多く降り積もること数寸の時、大臣諸王臣らとともに元正太上天皇の御在所中宮西院に参入、供奉して雪を掃い、詔により酒宴を賜わった。勅して雪を賦せしめられ、豊成も応じて歌を詠んだが、失ったという。この年、東海道鎮撫使を兼任した。

・・・・・・ 748=44歳：従二位を授けられて大納言に任ぜられ、

孝謙天皇・・・・ 749=45歳：\*東大寺大仏殿行幸の日に右大臣となった。しかしこの年、孝謙が即位、それに伴って光明皇太后のもとに紫微中台が創設され、実弟仲麻呂がその長官に任ぜられて政治を領導するようになったので、その政治的活動の範囲はきわめて制約されたものとなった。

聖武天皇没・ 756=52歳：

橘奈良麻呂乱 757=53歳：勅により皇太子道祖王を廃する議に加わり、新たに立てる皇太子について塩焼王を推したが成らなかった。この直後、橘奈良麻呂らの謀反計画が発覚し、その与党の勘問の任にあたったが、三男乙繩が奈良麻呂と親交があったということ、さらに謀反計画の中で豊成も一味に加えられていたことが判明したため、陰謀を知らずながら奏上せず、事が発覚するに及んでも肯究しなかったという理由で大宰員外帥に左降された。しかし難波の別業にいたり、病と称して赴任しなかった。

孝謙天皇讓位 758=54歳：

恵美押勝の乱 764=60歳：藤原仲麻呂が乱を起こすや右大臣に復され、さらに従一位に叙せられて左降に関する勅書・官符の類をことごとく焼却する旨の勅を賜わった。

・・・・・・ 765=61歳：\*仲麻呂の事件の責任を感じ、上表して父祖相伝の功封2千戸を辞し、榮山寺にも土地を施入後、没した。多数の経論を所持し、その写経所も盛んであったという。